

NPO 法人 かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)

**KECA ニュース =No.65=**

## 【巻頭言】

**2030 年を見据えた K E C A の仕組みづくり****～会員の総力を結集した運営体制の構築～**

理事長 河野健三

- (1) 5月1日から元号が平成から令和に替わります。「過去の知見を大切に  
新しいことにチャレンジする」元年にしたいと考えております。
- (2) 昨年12月に KECA としてはじめての試みとなる地球環境基金の助成金に  
応募しました。3月20日に全応募団体に対して書面にて採否の通知があり  
誠に残念ですが KECA の応募は採択されませんでした。応募に際しまして  
のご協力に対し厚く御礼申し上げます。尚、応募件数 388 件に対し、採択  
件数 198 件で、採択率は 51%でした。
- (3) KECA が応募した活動名は次の通りです。



「人と人をSDGsで結ぶ総合環境保全活動の仕組みづくり」  
～KECAを軸とした市民・事業者・学校・行政等との連携～

今回、助成要望書の審査にあたった助成専門委員会からは次のようなコメントが付されました。

- ・従来行ってきた活動の延長に留まり、各主体間の連携に係る効果が限定的である。
  - ・この活動によりどのような変化がもたらされるかが、要望書から十分読み取ることが出来ない。
- (4) 令和元年を KECA の活動の基礎づくりの年と位置づけ、助成専門委員会のコメントも踏まえながら、あらためてのチャレンジに向けて検討していきたいと考えております。  
ご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

## ～目次～

P 1	巻頭言 2030 年を見据えた K E C A の仕組みづくり ～会員の総力を結集した運営体制の構築～	理事長 河野健三
P 2	「かながわ地球環境賞」の受賞について	湘南支部 <small>おやま</small> 小山 <small>みのる</small> 稔
P 2	2018 年度 KECA 総合研修会報告	グループワークファシリテーター 大曾根健久
P 4	【各委員会の活動報告等】環境教育委員会 岡本正義、化学物質委員会 石井員良、 エネルギー研究会 加藤幸男	
P 9	【各支部の活動報告】横浜支部 千葉雅子、横須賀三浦支部 高橋弘二、 湘南支部 西村堅一郎	
P 1 2	【新入会員】〈自己紹介〉 山口 和之	
P 1 2	【第 23 回通常総会のご案内】	

## 1. 「かながわ地球環境賞」の受賞について(お知らせ)

湘南支部 小山 稔

このたび、私は神奈川県とかながわ地球環境保全推進会議による平成30年度かながわ地球環境賞「地球環境保全活動部門」個人受賞者に選ばれ、2月6日に神奈川県庁本庁舎3階大会議室において、神奈川県知事黒岩祐治様から賞状と記念品(県産木材を使った額)をいただきました。KECA会員の「地球環境保全活動部門」受賞は平成26年度の嶋田和夫様、28年度の岡本正義様に続き、今回の私で3人目の受賞となりました。

表彰式の写真と県のパンフレットに掲載された私の活動概要を下記のとおりご報告します。



小山 稔

### 地域住民への地球温暖化防止や自然環境保全に関する普及啓発



平成13年から、かながわ環境カウンセラー協議会の会員として湘南地区を中心に活動し、茅ヶ崎市及び藤沢市が開催する環境フェアへ出展するなど、地球温暖化対策や自然環境保全に関する普及啓発を行っているほか、神奈川県「環境・エネルギー学校派遣事業」における小学校・中学校の出前授業を実施している。

また、平成27年からは神奈川県地球温暖化防止活動推進員としての活動も開始し、「マイエコ10(てん)宣言」や「COOL CHOICE」に関する普及啓発、研修会や推進員大会等での講演及び発表、市民講座での講義などを行っている。

#### ※所感

今回の受賞は、私個人の受賞というよりも、これまで活動を共にしてきた「NPO 法人かながわ環境カウンセラー協議会」湘南支部の皆様、元環境市民会議「ちがさきエコワーク」の皆様、神奈川県地球温暖化防止活動推進員湘南地区の皆様ほか、たくさんの方々のご支援とご協力の賜物と思い、関係者に感謝いたします。

## 2. 2018年度 KECA 総合研修会の開催

グループワークファシリテーター 大曾根健久

2019年1月19日、横浜市市民活動支援センターにおいて KECA 総合研修会を実施いたしました。今回は、例年とは趣向を変え、『KECA の活動の一層の充実に向けて(つながりをもつ、選択肢をもつ)ー各委員会・地区支部における来年度活動計画策定のきっかけ作りー』と銘を打って、KECA の各委員会が実施しているセミナー類の企画を題材にして KECA 内の委員会や支部の枠を越えたグループ討議

を行うことで、会員相互の理解と交流を深めることといたしました。

グループは、所属の委員会・支部が分散するように3つに分け、これまでに経験した（見聞きした）セミナー類実施に際しての苦労点（課題）・原因・対策案についてブレインストーミングを行いながら、とりまとめた。それを基にしてセミナー類の企画提案書（案）を作成し、発表してもらいました。発表にあたっては、川島 直氏（日本環境教育フォーラム（JEEF）理事長）が考案した『KP（紙芝居プレゼンテーション）法』\*を用いました。

以下に3つのグループが考えた企画の概要をご紹介します。

グループ1：◎大竹、△近藤、岸、高橋（弘）、河野（◎：リーダー、△：発表者）

〔セミナータイトル〕エコ検定受験準備講習会 ～クールチョイスをできる人になろう～

〔目的・目標〕受験の動機付け、合格率の向上、年間50人の合格→60人の受講

〔内 容〕現状のままでOK

〔実施者・スタッフ確保策〕KECA スタッフを現状3名から5名に増員

〔対象者・参加者確保策〕中小企業の社員、大学（環境関係の学部生）・高校生・中学生、主婦

グループ2：◎長安、△遠藤、岩村、千葉

〔セミナータイトル〕内部環境監査員教育 ～企業価値を高める為に！～

〔目的・目標〕課題とチャンスに気づき、解決に役立つ内部監査員の育成

〔内 容〕より充実したテキストの作成、ロールプレイのトレーニング（模範演技の実施検討）、講師の学習→能力向上

〔実施者・スタッフ確保策〕KECA 環境管理委員会内部監査員グループ

〔対象者・参加者確保策〕外部の企業、ホームページでの公開の他あらゆる方法での宣伝、役立つ情報の発信

グループ3：◎杉浦、△高橋（利）、石井、下川、眞砂

〔セミナータイトル〕エコ検定受験セミナーの充実 ～セミナー受講者の増加を目指して～

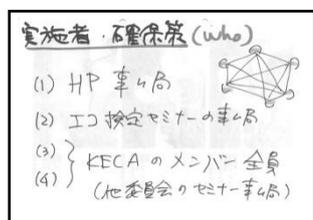
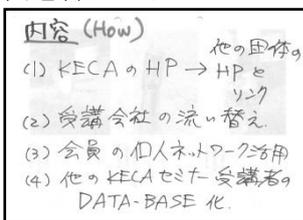
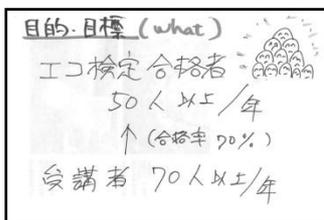
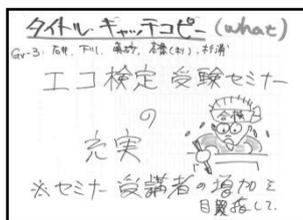
〔目的・目標〕エコ検定合格者50人以上/年→受講者70人以上/年

〔内 容〕KECA-HPでの情報発信・他団体HPとのリンク、受講会社の洗い替え、会員の個人的ネットワーク活用、他のKECAセミナー受講者のデータベース化

〔実施者・スタッフ確保策〕KECA-HP事務局、エコ検定セミナー事務局、KECAメンバー全員（他の委員会のセミナー事務局）

〔対象者・参加者確保策〕「内容」と同じ

グループ3の紙芝居シート



紙芝居法による企画案の発表



ブレスト内容の発表



グループ討議

各グループとも、実体験に基づく様々な苦労点や課題、対策案が出され、それを基にしたセミナー企画案が発表されました。各グループとも重要な課題として「いかにして参加者を集めるか」を上げており、その対策案として、KECA-HPの活用、KECA内の他セミナー参加者データベースの活用、KECA会員が持つネットワークの活用、セミナーの内容に関連が深い団体組織への参加呼びかけなどが提案されました。これらは、今後の各セミナーの企画検討時に一考に値すると思われま

す。なお、総合研修会終了後、会場を波止場会館内のサラに移し懇親会を行いました。ここでは、イス席でみんなが一つの大きなテーブルを囲み、各自の活動状況の報告等を話題のきっかけにしながら、あらためて懇親・交流を深めることができました。

＊『KP(紙芝居プレゼンテーション)法』: B5判やA4判の用紙にキーワードや伝えたいことを手書きで大きく書いて、紙芝居のように用紙をめくったり、ボードに貼り出しながら話を進めていく手法。手書きのため、パソコンやプロジェクターの機材も不要であり、書き込みの自由度も高い。話の展開に応じて用紙を並べ替えたり必要な用紙だけを取り出して説明することが容易。説明用紙が大きくないことから5人～30人程度を対象にする場面で有効。

## 【各委員会・研究会の活動報告等】

### ＝環境教育委員会＝ 岡本 正義

#### 1. 環境教育インストラクター応募資格取得セミナーを定員オーバーの参加者と一緒に活発に楽しく実施した。

2019年1月12日(土)、13日(日)の2日間、県民センターで26名の参加者を集めて2018年度セミナーを開催した。応募方法を工夫することにより、定員25名を超える30名ほどの応募者がありました。今回は世の中でSDGsに対する関心が高まっていることから、「これからの環境教育を考える～環境教育×SDGs～」の基調講演を都立高校・Think the Earth・未来教育デザインの山藤旅間先生にお願いした。引き続き環境教育委員会のメンバーが講師を務め、最近の環境問題、環境教育の場と安全対策を説明した後、実践事例として生物多様性、野菜作り、暮らしと水の環境授業、企業における環境教育を紹介した。その後、参加者が自分の関心のあるテーマ領域の6グループに分かれて、グループ討議を進めながら実践的なプログラム作成を行った。この体験をもとに1日目のセミナー終了後に自宅で自らのテーマでプログラム作成を行った。2日目はそのプログラムで模擬授業を行い、体験実践を行った。6グループの代表者による再度の模擬授業を通して、インストラクターとしての実践力とは?を参加者全員で体験した。今回の参加者は、遠く兵庫、京都、宮城、長野、静岡県からも来て頂き、セミナーでの活発な議論は勿論、交流会での人脈作りも楽しんで進めることができた。参加者の中に環境に関する実験をマジックのように披露するプロのマジシャンもいて、その技には全員が感心する場面もありました。今回のセミナーを通して早速KECAに入会をして頂く人や学校の出前授業に見学、参加を希望する人も名乗り出ることもあり、実り多いセミナーでした。



参加者で教室は満員になりました



山藤先生の環境教育×SDGsの講演



参加者から評判の高かった事業者向け講義



代表者の模擬授業です



楽しい、実り多い交流会でした



修了証授与です。これで応募ができます

## 2. 事業者向け環境教育インストラクタースキルアップ研修会をリサイクル企業（株）タズミの工場見学も兼ねて実施した。

2月16日（土）に「中国廃棄物輸入規制を含む廃棄物処理の現状と、社内廃棄物教育の進め方」をテーマとして、（株）タズミ プラターン海老名工場のRPF製造ラインの見学も行いながらスキルアップ研修会を開催した。参加者は、環境教育インストラクターセミナー受講者をはじめ、EA21 審査員など廃棄物処理現場の実情を知りたい方を含めて8名でした。（株）タズミの田墨常務取締役から廃棄物の実情や課題を紹介して頂き、全員がヘルメットと作業着を着用し、受け入れブースからRPFの最終製品までの工程をつぶさに見学した。生憎、土曜日の午後でしたのでマシンは稼働していなかったが、普段は見られない破碎機の刃も見られる良い経験ができた。学校での廃棄物に対する授業事例をごみ分別体験も加味して、環境教育委員会のメンバーが紹介した後、参加者がグループワークで廃棄物問題を意見交換し、発表して終了した。参加者のアンケートからも講義も現場見学も大変良かった、満足したと好評でした。



海老名市のごみ分別を体験



2つのグループに分かれて意見交換

### 3. 第1回環境カウンセラー環境保全活動表彰並びに平成31年度地球環境基金助成金に応募

小中高校生や教職員、温暖化防止活動推進員などの環境教育・講義、環境教育インストラクター・環境カウンセラーなどの養成セミナー、並びに事業者向け環境教育セミナー、市民環境活動報告会の推進など環境教育委員会活動をまとめ、書類作成を行い、他の委員会活動と合わせて KECA として、掲題の表彰並びに助成金に応募した。結果は3月に発表される予定です。



環境教育活動に関する環境大臣賞受賞と活動紹介パンフレット



環境教育インストラクターセミナー  
チラシ



市民環境活動報告会チラシ

## ＝化学物質委員会＝ 石井 員良

### 化学物質委員会 2019年度活動計画

化学物質に関する周知活動の手段として、2015年度（平成27年度）から継続している化学物質に関するセミナーの開催を計画中です。

(1) KECAのホームページによる情報発信

①化学物質を理解する上で必要な基本的事項を分かり易く解説をします。

新聞、インターネットなどで話題になっている化学物質に関する事柄を分かり易く解説します。環境カウンセラーとしては、市民の方に自分で調べられる情報源（官公庁、財団法人、官公立の研究機関など）を紹介し、化学物質に関する話題を正確に理解してもらえるように手助けをする立ち位置（材料提供）です。

②市民・事業者向けとしては、「PRTRデータを読み解くための市民ハンドブック」を解説する講座を開

設します。なお、このガイドブックは、有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物として事業所の外に運び出されたかというデータ（PRTRデータ）をとりまとめ、わかりやすく説明したものです。

## （２）化学物質に関するセミナー

「PRTRデータを読み解くための市民ハンドブック」を分かり易く解説するためのセミナーを開催する予定です。また、今まで開催したセミナーで使用した資料（化学物質のリスクアセスメント、化学物質のSDSラベル、化学物質の保管など）を編集した講座をホームページに開設する予定です。

## ＝エネルギー研究会＝ 加藤 幸男

### 日本のエネルギー政策について（進むべき方向性）

表題：総合エネルギー政策（副題：地球温暖化対策もさらに、重要である）

#### 1. 現状把握

今、我々が抱えている問題は、一に「地球温暖化対策」である。地球温暖化が進んでいるのは、まぎれもない事実である。2、3日前のT・Vによると今までは、沖縄で取れていた果物が千葉県で収穫され本来の味が確保されているとのことであつた。（平成30年度では、千葉県から、更に、北海道へと進展している）又、T・Vの気象学者の解説によると100年後の日本に上陸する台風の数、減ってくるが、台風が日本へ上陸しても勢力が衰えず風速50m/sクラスが増えてくると見ている。

この現象は、海面温度が上昇することに基づくと考えられるとのことで、地球温暖化は、地球全体の気象状況のバランスをも狂わせてしまう。これは、温暖化に由来するもので各所に同様な現象が見られる。

ところが、3・11東日本大震災後は、当面の問題は、エネルギー対策・節電に移行してしまった様な感がある。「地球温暖化問題」は、先送りにされたわけではなく、依然として人類の最重要課題であるのに変わりはない。

電中研（電力中央研究所）NO.468 2010 Augustによると「電源別のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量」を評価している。

注：発電所の建設、燃料の採掘、輸送、精製、運転、保守などの全ての工程を対象とした比較。

火力発電（LNG、石油、石炭）は、発電のための燃料その物と付帯設備によるCO<sub>2</sub>排出がある。一方、その他の発電（風力、太陽光、地熱、水力、原子力）については、付帯設備によるCO<sub>2</sub>排出はあるが、前者に比べても一桁以上も少ない。

#### 2. 最も重要と考える課題の抽出

まず、脱・原発を最優先に実現することが我々、広島・長崎の原爆を経験した世代が国民の子孫に対する責務であると思う。

##### 2-1. 脱・原発を表題にした理由

この度の災害は、科学技術を過信することの危険性の教訓であつた。――詳細略――

##### 2-2. LPG・石油・石炭といった枯渇資源に当面は依存する理由

現実問題として、枯渇資源に依存して出来るだけ速やかに脱原発体制を確立する。

枯渇資源は、CO<sub>2</sub>排出という問題がありこれを解決するのは、我が国としては、最も得意とする分野であり、これを起点に国力（産業）の進展が図れる可能性が大きい。

##### 2-3. 再生可能エネルギーに全面的に依存できるか

現状では、全面的な依存は難しい。日本の国土の立地条件から海洋での風力発電は多額の費用が掛かる。（海岸線が急に深くなっているため建設費が高む）

下記の「新エネルギー法」との関連で記述する。

#### 「新エネルギー法」

新エネルギー法とは正式名称を「新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法施行令（以下新エネ法施行令）といい、1997年に制定された法律のことで、石油など化石燃料の代替エネルギーとして利用が期待されているもののうち、コストや経済面から普及が思わしくないものの導入促進を図ることを目的としている。具体的な対象として以下のエネルギー14項目が指定されている。→特徴、問題点  
1) 太陽光発電→天候に左右される。きわめて広大な土地が必要。発電の単価が高い。／2) 風力発電→夜も発電可能、風速に左右される（5m/s 以上～15m/s 以下）建設場所が限られる。／3) 太陽熱利用→活用が限定される。／4) 温度差エネルギー→活用が限定される。／5) 廃棄物発電→廃棄物処理場に併設。小容量。／6) 廃棄物熱利用→5) と同様。／7) 廃棄物燃料製造→5) と同様。5)、6)、7) はバイオマスエネルギーに相当。／8) バイオマス発電→再生可能エネルギーとして今後共有望。／9) バイオマス熱利用→8) と同様。／10) バイオマス燃料製造→8) と同様。／11) 雪氷熱利用→小容量、地域限定。／12) クリーンエネルギー自動車。／13) 天然ガスコージェネレーション、／14) 燃料電池→12)、13) と同様。日本の技術力による開発が期待できる。

#### 2-4. 革新的な省エネが実現可能か

日本としては、どうしても解決すべき問題である。我が国の省エネ技術を海外に普及させることも責務である。地球温暖化防止は、一国だけの問題ではない。今までの我が国の技術力からして可能である。

#### 2-5. 脱・原発、

既に、前項で述べているので詳細は、割愛します。我が国の絶対に譲れない方針としていきたい。

### 3. 1で抽出した課題の解決策について

#### 3-1 脱・原発を表題にした理由

脱・原発が絶対条件であるが、表面に立てずに、エネルギー問題解決を進めていきたい。

#### 3-2 LPG・石油・石炭といった枯渇資源に当面は依存する理由

地球温暖化対策としてのCO2削減の面からは矛盾するが原発を除いたエネルギーバランスから当面は、止むを得ない。

#### 3-3. 再生可能エネルギーが依存可能か

太陽光発電等の全料買い取り制度が機能すればある程度は、普及するがエネルギーの絶対量では、足りないのは明らかであるが、地球温暖化対策（CO2削減）の面からは有効なので、普及促進の必要がある。

#### 3-4 省エネ技術に依存可能か

十分依存可能である、我が国の60年に及ぶ省エネの歴史からこれは、世界でも一級の技術であり、我が国の経済的復興のみでなく、世界にも貢献可能な技術である。

#### 3-5 総合的な解決策

冒頭に触れた様にエネルギー問題は、地球温暖化防止に関わることで我が国だけの問題ではない。総合エネルギー政策は、単にエネルギーだけの問題ではなく、総合的に我が国の経済発展に繋げていきたい。

また、ISO50001「エネルギーマネジメントシステム」が2011年6月15日に制定され、更に2018年8月に第一回の改定が実施された。この国際規格は、我が国の省エネ法との関係を十分に組み込んだもので今後は、日本が率先して世界をリードすることも可能である。

これを糸口に我が国の3・11東日本大震災の停滞したムードから立ち直らせたい。

## 【各支部の活動報告】

### ＝横浜支部＝ 千葉 雅子

#### 1. 株式会社タツノ見学会報告

- 1) 見学日時：2019年3月1日（金）14:00～16:00
- 2) 見学者8名；遠藤、河野、村井、原、木村、大野、千葉、太田（記）
- 3) 工場見学内容（所要時間約120分）：

＊(株)タツノ・横浜工場（神奈川県横浜市栄区笠間 4-1-1）

＊会社概要説明／ショールーム及び工場見学／質疑応答

（株式会社タツノの概要）

各種自動車エネルギーの計量・供給機器メーカーで、①石油用各種機器製造販売、②ガソリンスタンド向け販売業務用 OA 機器製造販売、③ガソリンスタンド、油槽所、工場用プラントの設計・施工、④石油用各種機器の修理及び維持管理、⑤ガソリンスタンド、油槽所などの施設の土壌環境保全事業を実施している。ISO14001 認証取得。

（タツノ環境方針）

企業理念は「地球環境の保全が将来に向けての最重要課題」としており、環境方針では、下記を挙げている。

- ・顧客であるエネルギー関連企業及び行政機関等の方針に従い、製品や技術開発を通して環境汚染の防止や環境負荷の低減に努める。
- ・事業活動における天然資源の節約に努め、エネルギー消費及び廃棄物の削減を図ると共に、工場内に保管されている危険物による環境汚染を予防する。



（感想）株式会社タツノはガソリンスタンドの給油スタンドを多く供給している老舗企業（創業 1911 年）です。今回横浜工場を横浜支部の 8 人で見学しました。会社概要の説明を受けた後に、プレゼンテーションルームで製品群の説明を受けました。日頃、何気なく見ている設備にも、ガソリン蒸気回収等多くの工夫や改善が継続的に図られていました。現状、海外向けが 65%、国内が 35%で、出荷待ちの製品にはベトナム、パキスタン向けのものがありました。

工場見学ではアSEMBリー及び機械加工現場を見学しましたが、マシンニングセンター（MC）、数値制御（NC）加工が過半で自動化が進んでいました。自動搬送やロボット（人型ロボット）が導入されており、最新の機械工場の様相でした。新規製品開発にも意欲的で新エネルギー関連製品では、水素ステーションを開発・設置していました。工場広場にはトヨタの燃料電池搭載のフォークリフトや MIRAI（燃料電池車）があり、運よくフォークリフトに水素チャージする現場を見ることができました。（画像はタツノ横浜工場の外観）

#### 2. 春の自然観察会「円海山緑地と横浜自然観察の森」

日時；2019年3月27日 9：30－15：00

場所；円海山緑地（瀬上、大丸山、横浜自然観察の森他）

集合；9時30分 横浜自然観察の森 自然観察センター

講師；横浜自然観察の森 自然観察センターレンジャー 奴賀氏

持ち物；動きやすい服装、昼食、水筒、双眼鏡（あれば）。参加者8名

感想；横浜自然観察の森をレンジャーに案内して頂きながら、自然観察を行い、昼食の後、午後は自然観察の森から尾根道を参加者で歩き、瀬上市民の森を経由してバス乗り場に出ました。歩行距離はおおよそ8キロ、約16,000歩でした。

お天気に恵まれ、桜（大島桜、山桜、染井吉野）も美しく咲き、満足な1日でした。



桜の木に止まりさえずるウグイス！とても珍しいことだそうです。有難う、ウグイスちゃん。



新緑の木々をバックに参加者全員撮影。



ヘイケボタル湿地のヤマアカガエルのオタマジャクシに見入る。



横浜市最高峰の大丸山に登りました。



台湾リスに齧られて白くなった幹。痛々しかった。

## ＝横須賀三浦支部＝ 高橋 弘二

## ☆☆☆『横須賀いいね★エコ活動賞』をいただきました ☆☆☆

2019年1月26日（土）午後、横須賀ベイサイド・ポケットにおいて「横須賀かんきょうフォーラム2019」が開催され、KECA 横三支部会員が関係する団体が「横須賀いいね★エコ活動賞功労賞」を、環境教育指導者として出前授業を行った小学校が「横須賀いいね★エコ活動賞」を受賞し、上地横須賀市長から表彰状と副賞をいただきました。

◎「横須賀いいね★エコ活動賞功労賞」は、地域ですぐれた環境活動を行っており、これまでに「横須賀エコ大賞」を受賞し、その後も活動を続けている団体が表彰されるものです（今年が初めて）。

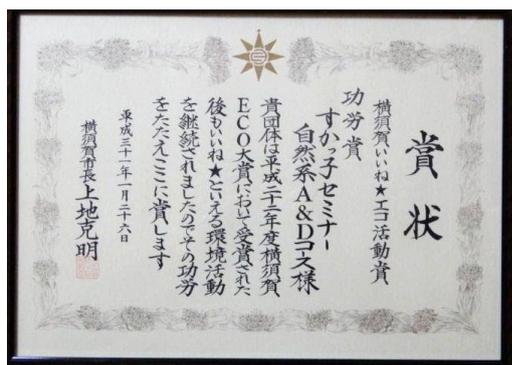
◆横須賀「水と環境」研究会（代表高橋弘二）：1988年（昭和63年）設立、三浦半島（主として横須賀市）の川を中心とする水環境の調査、観察、保全活動および保育園児から小中学生、市民を対象に環境教育、自然体験活動を行っています。

◆すかっ子セミナー自然系A&Dコース（総括責任者高橋弘二、Aコース責任者中村修二郎、Dコース責任者小嶋修一）：“すかっ子セミナー（実行委員長高橋弘二）”は、公立の学校が5日制になり土曜日が休日となった2002年（平成14年）に、市民活動団体により「小中学生の土曜体験プログラム」として、生活環境、自然環境、郷土史、福祉、創作文化などのコースを募集し開講しました。その中の「5コース自然系A：川がき探検隊」、「8コース自然系D：海っ子・山っ子」をKECA会員が担当しています。5月にオリエンテーションを行い、10月まで毎月第1土曜日（Aコース）、第3土曜日（Dコース）に三浦半島の海、川、山で自然体験活動を行います。11月に活動の結果をまとめた合同発表会を開催しています。（横須賀市、神奈川県横須賀三浦県政総合センターなどの後援）

◎「横須賀いいね★エコ活動賞」は、2018年度の「学校短期活動の部」で、市立望洋小学校4年生が★望洋環境保全賞★を受賞しました。望洋小学校では毎年6月に総合学習で「学校ビオトープ」の授業、体験学習を行っており、KECA会員高橋弘二、遠田和雄、中村修二郎（元）が環境教育指導者として授業を行っています。昨年授業を受けた4年生が、ビオトープの授業を通じて「環境を守ることの大切さを知り、ビオトープの環境を守ったり地域の公園の美化活動に取り組んだこと」が評価されました。発表の後、一緒に記念写真を撮りました。（高橋弘二）



スケッチしたものを紹介（望洋小）



「すかっ子セミナーA&amp;Dコース」の賞状



望洋小学校4年生の発表風景

## ＝湘南支部＝ 西村 堅一郎 ～ふじさわ環境フェアに参加～

「COOLな未来 ふじさわ環境フェア ECO2まつり2018（第23回ふじさわ環境フェア）」が2018年11月24日（土）に藤沢市民会館で開催されました。企業、市民団体、行政などの参加団体は48団体でした。KECA湘南支部も支部会員4名と横浜支部大野さんの応援を得て、第二展示室のパネル展示とワークショップを実施しました。総入場者数3792名と盛況でした。KECAのブースも多くの人々が来られて、大変忙しい状況でした。

パネル展示は写真の後ろに展示しています。今までは地球温暖化緩和策が主でしたが、今年は適応策について展示しました。フェアでのクイズラリーの25番の問題の答えが「ハザードマップ」で、藤沢市が作成した3枚の「洪水・土砂災害ハザードマップ」を見ながら、自分たちが住んでいる地域にどんな危険があるかを知ってもらい、気象庁や自治体から出される警報に日頃から関心をもって正しく判断できるように啓発しました。右側にはKECA湘南支部の主な活動の写真を展示しています。

エコ体験コーナーでは「廃ペットボトルを使った空気砲と浮沈子づくり」を行ないました。二つのコーナーともたくさんのお子様連れのお客の来場で大変盛況でした。



空気砲づくり

### 第23回通常総会(予定)

- 日時：2019年5月18日（土）13時～17時
- 会場：波止場会館（横浜・大榎橋入口）
- 議案：2018年度活動報告・2019年度活動計画  
定款変更・役員改選等
- 特別講演：「正義・リスク・科学技術と未来  
—中小企業に伝えるべき世界的大変動—」  
講師：持続性推進機構 安井 至 理事長
- 懇親会：波止場会館 1階サラ（～19時）

### 【新入会員】＜自己紹介＞ 山口 和之

みなさんの暮らすまちの空の色は、何色ですか？また、水はどこから来て、どこに流れていくかを、知っていますか？私自身の環境授業は、このような言葉の投げ掛けから始まります。この言葉には、私の住む「かわさき」は、かつて、空は灰色もしくはねずみ色で、青い空と太陽は、その色に隠され、家庭と工場と使われた水が入り混じり、そのまんまの状態（多摩）川に流されていました。川は、臭さと白い泡がたちこめていました。その時に見た鳥、魚、小動物たちの生き物たちの憐れな姿と生活は、今でもこころに焼き付いています。

人だけがこの地球を支えているのではないのに、何故か同じあやまちを繰り返す。今の子どもたちが未来を変えるのではなく、気づかせることが第一歩であると思います。

### 【編集後記】

本65号には、巻頭言、総合研修会、委員会、支部の活動報告、会員紹介等を掲載しました。

当協議会もようやくホームページをリニューアルすることができました。かけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐために、今まで以上に情報発信をして、理解を広め仲間を増やしていくために、ご協力を宜しくお願いします。（千葉）

### 〔発行〕特定非営利活動法人

かながわ環境カウンセラー協議会（KECA）

理事長：河野健三 / 編集人：千葉雅子

◇住所：〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1  
横浜ワールドポーターズ6階 NPO スクエア内

◇電話：045-226-5822 FAX：045-226-5825

◇Eメール：37keca@kke.biglobe.ne.jp

◇URL：https://keca-kanagawa.jimdo.com/